新聞を受験・教育の場で

ニュース時事能力検定試験 検NEWS

ニュースを「生き抜く力」に　まなぶ@朝日新聞

受験や教育の現場で、新聞を読む力が求められる場面も増えています。新聞・テレビで活躍する池上彰さんに、新聞を使って学ぶ意義を聞きました（上、下の2回に分けて紹介します）。

主体的に読んで得る実り

池上彰さんインタビュー 上

いけがみ・あきら　1950年長野県生まれ。NHK放送記者、「週刊こどもニュース」キャスターなどを経て、現在は東京工業大学リベラルアーツ研究教育院特命教授などを務める。テレビ、新聞、出版で幅広く活躍。

世界がグローバル化していて、トランプ大統領が一言何か言っただけで世の中が動きます。あるいは中国の経済がおかしくなると、回り回って日本の会社に勤めている人にも思わぬ形で影響があります。いろんな所で起きるニュースによって、私たちの暮らしが大きな影響を受けます。「だからニュースに敏感であった方がいいよね」ということになると思います。

例えば今回の統計不正問題。とんでもないことになっていますが、単に厚生労働省が統計処理を間違っただけではなく、実は本来もらえるはずの雇用保険が満額もらえなかった、労災保険が少なかったという話です。テレビでニュースを見ただけだと「へー、そうなんだ」で終わってしまう。しかし新聞をよく読むと「雇用保険を本来もらえる人が満額をもらえなかった」と言う話だと分かり、「不安だったらこちらへ」という電話番号まで書いてある。直接被害を解消するきっかけにもなる。

これは同時に教育にも役立ちます。統計の数字はちょっと見ただけではよく分からないけれども、とても大事だと分かります。今回の場合でいうと、従業員500人以上の会社に対しすべて調査をしなくてはいけないのに、東京都については3分の1しか調査をしていなかった。新聞各社は、都内の500人以上の企業は地方よりも平均給与が高いので、その高いところが入っていなかったから、平均給与は下がっていると言葉で説明している。その部分に対する図解はないですよね。だから逆に新聞を題材にして、東京の社数、地方の社数、給与などモデルケースを活用しながら平均給与を算出し、本来は東京のほうが高いはずなのに、この額だったよ、とすれば学校の授業になる。中学受験対策に使えますよ。

小学校6年生と中学校2年生の全国学力テストの国語問題を見ると、「新聞の読み方」がけっこう出ます。例えばグラフや表が出て、それを解説する記事がある。グラフや表を見ながら答えなさいという問題が増えてきています。

現行の大学入試センター試験に代わる新テストでも、文章を読ませた上でその中に出てくるグラフや表を使ってさらに考えさせる問いかけがあります。これは新聞を読んでいるとつく力です。

「今の若い人はインターネットで短い記事しか読まない。長い記事を読む力が急激に弱っている」という教育現場の問題意識があります。大学で学んだり研究したりするには長い文章を読む力がないと困るという意識があるので、試験の文章が実に長くなったのです。この前も新テストの2回目の試行テストを実施しましたが、解いた人たちは「文章が長くて時間が足りなかった」と言っている。

しかし今、その力が求められている。普段新聞を読んでいるといくらでも解けます。活字に対しては主体的に取り組まないと、実りを得ることができない。新聞を読むことは主体的にものを考えるきっかけになると思います。

（聞き手　教育総合本部長・桜井透）

※下は26日に掲載予定です。

ニュース検定 朝日新聞社も主催に

ニュースを読み解き、活用する力を養い、認定するニュース時事能力検定試験（ニュース検定）の主催に、2019年度から朝日新聞社が加わります。

ニュース検定はこれまで、日本ニュース時事能力検定協会や毎日新聞社など全国の30の新聞社・放送局が主催してきました。2007年度からの12年間で、志願者数は累計41万人を突破しています。

SNS、動画サイトの普及やネットメディアの隆盛で、情報を入手するルートが多様化する現代。自分で情報を手に入れ、真偽を判断する力がますます必要とされています。ニュース検定は、ベテラン記者や有識者らのチームが厳選した良質な問題を出題。現代社会を読み解く総合的な「時事力」を測ります。

検定の公式教材は毎年春に改定され、最新のニュース、旬の話題が盛り込まれています。2～5級の検定問題の約6割は公式教材から出題されるため、受検対策に最適です。

ニュース検定は全国約400の大学・短大の入試で評価・優遇されるほか、就職活動の筆記試験や面接でも役立ちます。日々の新聞を読んで培った時事の知識を試す生涯学習の教材としても活用いただけます。

受検級の目安

対象	小学生	中学生	高校生	大学生・一般
級				1級
				2級
			準2級	
		3級		
	4級			
	5級			

ニュース検定とは

- 志願者は累計41万人を突破
- 31の新聞社・放送局が主催

問題のイメージ

3級　日本の国内総生産（GDP）のうち、約6割と最も多くの割合を占めている項目は何ですか。

① 個人が商品やサービスを買うために使った総額
② 日本から外国に輸出した商品やサービスの総額
③ 国や地方自治体が公共事業をするために使った総額
④ 企業が工場や機械の新設・増設のために使った総額

準2級　代理出産や卵子提供、「こうのとりのゆりかご（赤ちゃんポスト）」（熊本市）に関連して、その保障が課題となっている権利は何ですか。

① プライバシー権　② 出自を知る権利
③ 平和的生存権　④ 忘れられる権利

2級　米国や中国、韓国など世界的に人気が高まる「eスポーツ」について、正しい記述はどれですか。

① エコロジー（環境）に配慮した競技のことだ。
② コンピューターゲームで対戦する競技のことだ。
③ 高齢者を中心に愛好されている競技のことだ。
④ 東京オリンピック（五輪）で、初めて正式種目に採用された競技のことだ。

（2018年度検定問題より抜粋）

解答　3級:①　準2級:②　2級:②

合格に近づく公式教材

- 2～5級の検定問題の約6割は公式教材から出題
- 毎年改定

6月の検定 3月1日から受け付け

ニュース検定は年4回実施します。2019年度は6月23日（日）、11月24日（日）に全国41都市で、9月1日（日）、20年2月16日（日）に東京・大阪で受検できます（9月と2月は1級は実施しません）。

6月の検定は3月1日に受け付けを開始します。申し込みは公式サイト（https://www.newskentei.jp/）から。全国の主要書店や主催新聞社で配布している払込取扱票（申込書）でも申し込めます。

検定料（税込み）は1級6500円、2級4500円、準2級3500円、3級3000円、4級・5級2500円。

2019年度版公式教材は3月中下旬に順次発売予定です。全国の主要書店のほか、まなぶ@朝日新聞e-shop（http://www.asahi-j-ec.com/）でお買い求めいただけます。

ニュース検定に関するお問い合わせは朝日新聞社教育総合本部（03・5540・7582、平日午前10時～午後6時）まで。